

ここにこハイキング主催・季節の花と景色を楽しむハイキング
カタクリと春の草花を楽しむ御前山ハイキング

2018年4月19日(木)、22日(日) 晴れ

コース：奥多摩湖～惣岳山～御前山～大ダワ～鋸尾根～奥多摩駅

休日にも実施してほしいとのお客様のご要望に応え、19日(木)と22日(日)に実施しました。奥多摩駅から奥多摩湖までバスに乗車。平日は臨時便が出て貸し切り状態でゆったりと乗車できましたが、休日は同じ臨時便でも満員でぎゅうぎゅう詰めでした。

奥多摩湖畔で開会式を行い、コース説明と安全注意で本日歩くコースは長いこと、最初から急な上りが続くこと、狭い尾根道で左右両方が急斜面であること、御前山からの下りでもアップダウンがあること等を伝え、入念に準備体操を行ってから出発しました。

小河内ダムサイトから大ブナ尾根の急坂を上り、サス沢山で一休みして奥多摩湖と大菩薩嶺の展望を楽しみました。登山道にはイヌブナの雄花が沢山落ちていました。今年は高尾山でも同じことを見たので、イヌブナが一斉開花したようです。登山道の左と右でスギの人工林とカエデ・イヌブナの広葉樹林に区分された処があり、間伐してない人工林の暗さと広葉樹林の明るさの違いや、植樹後間伐・枝打ちなどの手入れがされてなく、50年以上経っても直径20cm位にしか育たないスギを見ながら、日本の林業の課題を説明しました。

惣岳山への上り道では目当てのカタクリがあちこちで咲いていました。一週間前の下見では無かったフデリンドウが咲き出し、カタクリの紫とフデリンドウの青の違いを楽しみました。産毛をつけた葉を開き始めたハウチワカエデが赤い花をつけていました。惣岳山山頂直前のくぼ地では鹿が食べない、ハシリドコロ、コバイケイソウ、トリカブトが群生していてまるで”毒草の原っぱ”でした。

惣岳山でひと休みして、登山道脇のカタクリや、ヒゲネワチガイソウに励まされながら御前山山頂に到着しました。広い山頂はカタクリ目当ての大勢の登山者で大変な賑わいでした。19日は山頂で昼食を摂ることが出来ましたが、22日は人混みを避けて、避難小屋まで下って昼食を摂りました。避難小屋の沢では、コガネネコノメソウとヨゴレネコノメが並んで咲いていました。

下りはクロノ尾山と鞆口山を越えて大ダワまで尾根道を歩きました。1株黄色い花をつけたツツジ（ヒカゲツツジ?）がありました。大ダワから鋸尾根に登り、”鋸”の名前通り岩場のアップダウンを乗り越えて、奥多摩駅まで歩きました。岩場では、一週間前の下見時はイワウチワが、19日22日はイワカガミ（アカバナヒメイワカガミ）が咲いていました。頭上ではミツバツツジのピンクとシロヤシオ（ゴヨウツツジ）の白、ヤマツツジの赤と三色のツツジが咲き競っていました。

長距離の歩行で登り下りの累積高低差が1000mを超えるコースだったので、登山靴の踵の底が剥れる、リュックサックの肩紐の取付け部が切れる、脹脛や太腿を攣るなどのアクシデントがありましたが、携行しているガムテープ、細引き、消炎スプレー、サプリメント等で応急処置を施し、サポートスタッフが同行してエスケープルートを下り、参加者全員が奥多摩駅にゴールしました。

参加者：19日24名、22日12名

スタッフ：稲葉 カ、久保雅春、槇田幹夫（幹事、安全、報告）



出発前に入念に準備体操



サス沢山からの奥多摩湖と大菩薩嶺



御前山山頂 (1405m)



カタクリの季節は大混雑する御前山



蒼空の色フデリンドウ



コガネネコノメソウとヨゴレネコノメ



少し不気味なハシリドコロの花



群生するアカバナヒメイワカガミ